

木津川市地域公共交通総合連携協議会 会議結果要旨

会議名	第7回木津川市地域公共交通総合連携協議会		
日時	平成21年8月25日(火) 午前10時～午前11時30分	場所	木津川市役所全員協議会室
出席者 (出席者... 欠席者...)	委員	<p>【学識経験者】 中川 大委員(副会長・議長)、 大庭哲治委員</p> <p>【市民代表】 永松迪哉委員、 田中英治委員、 森岡宣之委員、 鶴岡由雄委員、 長柄光信委員、 中岡武司委員、 大西 清委員</p> <p>【事業者】 竹並秩男委員、 佃 侑吉郎委員 代理：山下裕人(近鉄日本鉄道株式会社鉄道事業本部企画統括部計画部)、 梅谷裕規委員、 津田秀夫委員、 船橋文人委員、 筒井基好委員 代理：木戸 昇(城南タクシー株式会社執行役員)、 武田忠和委員、 加藤 隆委員、 小森義一委員、 佃 寿己委員 代理：大西秀樹(奈良交通労働組合幹事)、 木村 保委員</p> <p>【行政機関】 足立高広委員 羽田祐治委員、 梅阪 浩委員、 稲垣勝彦委員 代理：衣川貴雄(京都府山城広域振興局企画総務部 企画振興室主事)、 久保伊佐男委員、 山村 重一委員、 河井規子委員(会長)、 今井洋一委員、 炭谷育夫委員</p>	
	その他		
事務局	川西市長公室長、尾崎理事学研企画課長事務取扱、坂元係長、西村主任		
傍聴者	2人(うち 報道関係者0人)		
議題	<p>1. 開会</p> <p>2. 副会長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 協議事項 平成20年度決算報告について 平成21年度補正予算第1号(案)について 地方の元気再生事業の取組について</p> <p>(2) 報告事項 木津川市行財政改革推進委員会での取組について 実証運行の利用状況について</p> <p>(3) その他 次回法定協議会の日程について その他</p> <p>4. 閉会</p>		

会議結果要旨

1. 開会

事務局より開会を宣言した。

2. 副会長あいさつ

中川副会長より、開会にあたりあいさつがあった。

3. 議事

議長から運営内規の報告に基づき、会議録の署名委員として、梅谷裕規委員を指名した。

(1) 協議事項

平成20年度決算報告について

「資料1 平成20年度木津川市地域公共交通総合連携協議会会計歳入歳出決算書」を用いて、平成20年度の最終歳出決算内容及び監査委員による決算審査報告について説明し、承認いただいた。

平成21年度補正予算第1号(案)について

「資料2 平成21年度木津川市地域公共交通総合連携協議会補正予算第1号(案)」を用いて、平成21年度補正予算第1号の内容及び補正後の予定事業、及び現在追加申請中の国庫補助金の交付決定後の予算取扱について提案し、承認いただいた。

ただし、歳出予算(款)2 事業費(項)1 調査計画費(目)1 調査計画費の利用促進事業の事業内容について、具体案を示し事業実施することとなった。

また、資料2について、分かりやすくなるよう工夫することとなった。

地方の元気再生事業の取組について

「資料3 平成21年度地方の元気再生事業の取組について」「参考資料 幻の都・恭仁京と名宝・加茂の三塔を活かした民学官による観光まちづくりプロジェクト報告書」を用いて、平成21年度の取組概要について提案し、平成20年度に引き続き京都大学を受託研究先として実施していくことに承認いただいた。

(2) 報告事項

木津川市行財政改革推進委員会での取組について

「資料4 木津川市行財政改革推進委員会 事業仕分けについて」を用いて、平成21年8月12日に木津川市行財政改革推進委員会で検討対象となったコミュニティバス運行事業に関する事業仕分けについて報告した。

実証運行の利用状況について

「資料5 実証運行後の利用状況について」を用いて、平成21年4月～6月の利用状況について報告した。

	<p>(3) その他 次回法定協議会の日程について 日程が決まり次第連絡する旨を説明した。</p> <p>その他 次年度においても、元気再生事業が継続案件になりうる事業評価がされたことを報告した。</p> <p>4. 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p>	<p>1. 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 副会長あいさつ 会議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 議事 (1) 協議事項 平成20年度決算報告について 会議結果要旨のとおり。</p> <p>【配布資料】 ・資料1 平成20年度木津川市地域公共交通総合連携協議会会計歳入歳出決算書 【主な意見・質疑等】(...質疑・意見、▶...質疑・意見に対する返答) バスの運賃は歳入に入っているのか ▶ 運賃収入は、それぞれのバス業務委託費の中で、運行経費から運賃収入を差し引いた分について支払っているため、歳入としてではなく、歳出として計上している。</p> <p>きのつバスの運行経費はどこに入っているのか ▶ きのつバスは協議会での協議が調っていないため、これまでの運行形態を継続しているため、市予算から支出している。</p> <p>平成21年度補正予算第1号(案)について 会議結果要旨のとおり。</p> <p>【配布資料】 ・資料2 平成21年度木津川市地域公共交通総合連携協議会補正予算第1号(案) 【主な意見・質疑等】(...質疑・意見、▶...質疑・意見に対する返答) 事業費の利用促進事業として、山城地域の利用促進例が説明にあったが、全額が山城地域の利用促進に活用されるのか。 ▶ コンサルのノウハウも活用するなかで、利用促進の具体施策に検討をしていきたい。なお山城地域についてはMMという手法が有効的ではないかということで一例として紹介させていただいた。 554万もの費用があるのに、一例だけでは分からない部分がある。利用度の低い</p>

ところへの施策に活用すべきではないのか。すべての路線にとって有効的な補正予算であってほしい。

- ▶ 現在、具体的な事業計画について検討しており、あらためて提案させていただく。

資料2の2ページ 歳入合計と歳出合計の差はどのように資料を見ればよいのか。

- ▶ 今回の補正で影響する部分を記載しているためである。
資料2の1ページ 歳入歳出予算総額と2ページ 歳出合計額との差は何か。
- ▶ 2ページは、補正で影響する部分を記載しているため、予備費の差額である。
7ページ 社会実験費の事業明細の各事業の合計額と予算計との差は何か。
- ▶ きのつバスの運行事業費分である。

資料についてすべて説明をしないと理解できないのは困るので、わかりやすくなるように、書き方に工夫をしていただきたい。

- ▶ 改善させていただく。

地方の元気再生事業の取組について
会議結果要旨のとおり。

【配布資料】

- ・資料3 平成21年度地方の元気再生事業の取組について
- ・参考資料 幻の都・恭仁京と名宝・加茂の三塔を活かした民学官による観光まちづくりプロジェクト報告書

【主な意見・質疑等】(…質疑・意見、▶…質疑・意見に対する返答)

観光ということであるが、木津川市の地域をまだよく知らない。そのような中、さまざまな魅力を住民にも情報提供いただき、住民からの意見を吸い上げ、検討するような場があればいいと思うが。

- ▶ 観光協会の新たな組織づくりが進められている、市全体の魅力についても、観光商工課で取組を進めている状態であり、意見は観光商工課にお伝えする。

通年化が今回のテーマであり、地域にとってプラスになるためには通年的に人が来てもらえるのがいいことであり、今年の課題は特に通年化に力を入れていきたい。

(2) 報告事項

木津川市行財政改革推進委員会での取組について
会議結果要旨のとおり。

【配布資料】

- ・資料4 木津川市行財政改革推進委員会 事業仕分けについて

【主な意見・質疑等】(…質疑・意見、▶…質疑・意見に対する返答)

「事業者のあり方についても検討してはどうか」という内容があるが、具体的

にどういふことが教えてほしい。

- ▶ 路線によっていろいろあるが、木津地域であれば、運賃を値上げすることで、運営を強化してはどうかという意見もある中、事業者のあり方については、当尾線と山城線の運行の違いについて、単純に経費比較した場合の違いについて質問があり、これに対しては路線免許の関係、これまでの事業経過等について説明させていただいた。

運賃は住民理解の話であるが、運行事業者の経費については、免許の関係もあるが、一番大切なのは安全性であり、事業者見直しで入札等を考えておられるのであれば、当然安全性について考慮し、価格だけでなく、安全の基準を明確にして取り組んでいただきたい。

事業仕分けで（４）改善要（内容・規模）であったが、具体的に何をいつまでにしないといけないのが決まっているのか。

- ▶ 何年までに何をするというのは明確にはなっていないが、資料にあるような意見などを十分留意しながら、事業を進めるようにといわれている。

木津川市の交通活性化に向けて検討しているなか、片方でコミュニティバスを考え、もう片方で市の財政についてのプロジェクトが動いており、違うステージで意見を述べあうよりも、委員会の中に相互に入ることによって、対決でなく融合することで、よりよい議論ができるのではないかと。

また委員の費用についても、事業に活用した方が有効的ではないかと。

- ▶ 木津川市を良くしていくためのそれぞれの委員会であり、それぞれの役割を持ったものである。

今回の事業仕分けにもあるが、民間事業者に委託できるものは民間でという部分については、今回提案しているバス事業については民間事業者では成り立たないものであり、行政と共に運営していこうという部分である。またその運営の方法について、この場で議論していただいている。

行財政の視点からいくと、赤字のものは、見直しをしていくべきではないかということになるが、公共交通はそういうものでないという認識であり、単に市民の交通というだけでなく、観光を活用し利用促進を図っていくといった点についても議論をいただいている。

行財政サイドとは対決した関係ではなく、財政的にも理解が得れる運行になれないかというあたりで、今後この場でも議論をしていきたい。

予算決算については、既に承認いただいた内容であるので、参考までということになる。

元気再生事業の予算について、費用内訳はコンサルタント費用かそれともどういふ経費であるのか。

- ▶ コンサル料かどうか、コンサルの意見や相談はあるが、費用全てがコンサル料ではない。具体的な内容は、みなさんからのご意見もいただきたい。

路線の存続について、赤字体系は変化しにくい中、自由に買物・通院できるこ

とで、住民は非常に喜んでおり、利用者はまだ少ないかもしれないが価値としては非常に高い。福祉施策としての視点も入れながら、市の方で継続していただく考えはあるのか。

- ▶ 公共交通を存続したい考えは持っているが、少しでも長く運営できるような形態を補助のある期間の中で作っていききたい。

行政からの費用を用いながら、少しでも赤字改善をし、長く運営できるものにしていききたい。

来月号の広報で、コミュニティバス全面廃止等にまで踏み込んで書いている。少し極端な書き方もあると思うが、判定からいくと、市で実施することへの理解はあるので、路線・運賃等を見直して少しでも効率的に取り組んでいく必要があり、市民への理解も含め少しでも早く取りくんでいかないといけない。

地域と一体となった増収策が不十分であると思う。時刻表を何回も配布するとか、乗っていただくための施策、宣伝とかをいろいろとやるべきではないか。

区の活用もし、運行存続できる基盤づくりをやってはどうかと思う。市民への浸透が十分でないので、市が中心となって取り組むべきでは。

- ▶ 市民への情報提供は公共交通だよりを発行し、運行継続条件等について示す一方で、利用促進についても、話題提供をしている。

地元との連携については、まず再編事務を優先しているが、昨年度の地方の元気再生事業では地元とも連携した取組も行っている。

今年度も具体的な利用施策について検討しているが、地元との取組についても検討していききたい。また逆に、地元からの提案や声もいただきたいとも思っている。

実証運行の利用状況について

会議結果要旨のとおり。

【配布資料】

- ・資料5 実証運行後の利用状況について

【主な意見・質疑等】(...質疑・意見、▶...質疑・意見に対する返答)

これまでの利用促進の強化で、山城線ときのつバスとの連携や、様々な乗車促進するアイデアがあったと思うが、今後の現実化される見通しがあれば教えてほしい。

- ▶ きのつバスも含めた利用促進について、一日乗車券や時刻表等を検討・改善していききたいと思っているところである。

いろいろなアイデアについて、考え方を組み立てるスケジュールは。

- ▶ 平成21年度中に整理していききたいと考えている。

きのつバスの状況もあるが、全体として利便性をあげる一方、経費は圧縮をかけることで、国庫補助金が無くなっても持続可能な運行ができると思っており、その目標にあわせて、引き続き取組を進めていききたい。

モビリティ・マネジメントについて、教えていただきたい。

	<p>▶ 利用促進のひとつの手法であるが、資料については必要となれば次回までにご用意させていただく。</p> <p> いろんな手法があるが、利用者・住民に直接語りかける的な情報提供を行う、コミュニケーションを大切にしながら、健康面や環境的視点も取り入れながら公共交通の利用促進を図るものである。</p> <p> 住民の協力なしではできないものでないので、みなさんにもご協力をお願いしたい。</p> <p>(3) その他 次回法定協議会の日程について 会議結果要旨のとおり。</p> <p> その他 会議結果要旨のとおり。</p> <p>4. 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上。</p>
<p>その他 特記事項</p>	